

強制連行 追悼碑問題

「いきなりレッドカード」

守る会幹部「納得できない」 県の拒否

高崎市の県立公園「群馬の森」の朝鮮人強制連行追悼碑をめぐる問題は、県が二十二日、碑を管理する市民団体に対して設置許可を更新しない決定を行い急展開した。不許可の決定直前に県庁であった県と市民団体の話し合いも、両者の主張は平行線をたどり、事実上決裂した状態だった。市民団体側は、県の決定に反発を強めている。
(菅原洋)

いが手続き上できないと説明したという。記者会見の席上、守る会の代表世話人を務める角田義一弁護士は、県の姿勢について「いきなりレッドカードとはおかしい。不許可

守る会は県との話し合いで、大沢正明知事との直接協議を申し入れたが、結局実現しなかった。この日県庁で記者会見した「記憶 反省 守る会」(前橋市)によると、十一日に解決に向けて提案した「当面は碑の前で追悼集会を開かない」「両者で期限ごとに更新について話し合う」などの三項目について県は全て拒否し、碑の撤去をあらためて求めた。

「可ありきた。私たちはたとえ殺されても、撤去に応じない」と憤っていた。県によると、四月十八日～七月二十二日、県へ電話やメールなどで寄せられたこの問題への意見は、「更新するべきだ」が六百七十五件、「更新するべきではない」が二百十六件となった。

かった。県の決定を聞いた守る会の幹部は「納得できない」と憤った。県によると、四月十八日～七月二十二日、県へ電話やメールなどで寄せられたこの問題への意見は、「更新するべきだ」が六百七十五件、「更新するべきではない」が二百十六件となった。



この日県庁で記者会見した「記憶 反省 守る会」(前橋市)によると、十一日に解決に向けて提案した「当面は碑の前で追悼集会を開かない」「両者で期限ごとに更新について話し合う」などの三項目について県は全て拒否し、碑の撤去をあらためて求めた。「追悼碑のある敷地を購入させてほしい」との提案に対しては、県側は都市公園法上、一部の敷地を公園から除外しなければならぬ

会見する「記憶 反省 守る会」の幹部(前橋市)